

令和3年度春季展

戦国最強の家老 —細川家を支えた重臣松井家とその至宝—

永青文庫

東京初紹介

大名・細川家と重臣・松井家に伝わる名品を集めた、主君と家臣のコラボ展！

細川家は初代・藤孝が信長に仕えて以来、江戸時代の終焉まで国持大名として存続しました。織田・豊臣・徳川と政権が移行する過程で滅亡した大名が多いなか、このように長きにわたって存続できた背景のひとつには、細川家筆頭家老・松井家の活躍がありました。

松井家初代・康之(1550～1612)は武略にすぐれ、数々の戦功を細川家にもたらしました。とりわけ秀吉からその働きが評価され、直参大名取り立ての申し出を受け、細川家への忠義から固辞しています。二代・興長(1582～1661)は主君に対しても忌憚のない意見を述べ、50年にわたって細川家を支え続けました。そうした細川家にとって最も重要な家老であった松井家の文物は、今も熊本県八代市の松井文庫に継承されています。

松井文庫には、康之と興長が深い関係を築いた千利休や古田織部、剣豪・宮本武蔵ゆかりの史料や作品も現存しています。利休が秀吉の勘気に触れて京を追われたとき、見送りに来てくれた細川家二代・忠興と織部への感謝の気持ちを康之に言づけた手紙や、興長の仲介により熊本藩細川家に客分として招かれた武蔵の水墨画など、貴重な品を多く含みます。

本展は、永青文庫と松井文庫の伝来品により、主君と家老の関係を東京で初紹介するものです。利休、武蔵らの名品を一堂に展覧するとともに、康之と興長の活躍ぶりを史料から辿り、最強の家老たるゆえんを探ります。



「松井康之像」(部分) 以心崇伝賛
慶長17年(1612) 松井文庫蔵



「松井興長像」(部分) 霊叟玄承賛
寛文3年(1663) 松井文庫蔵

■ 開催概要

展覧会名：令和3年度春季展

戦国最強の家老 —細川家を支えた重臣松井家とその至宝—

会 期：2022年3月12日(土)～5月8日(日) ※会期中、一部展示替えがあります。

※ご来館にあたって事前予約は必要ありませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。
※マスク着用の上、ご来館ください。当館の新型コロナウイルス感染拡大予防対策については、ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、開館時間の変更または臨時休館となる場合がございます。

会 場：永青文庫

開館時間：10:00～16:30 (入館は16:00まで)

休 館 日：毎週月曜日(ただし3/21は開館し、3/22は休館)

入 館 料：一般1000円、シニア(70歳以上) 800円、大学・高校生500円

※中学生以下、障害者手帳をご提示の方及びその介助者(1名)は無料。

主 催：永青文庫

特別協力：一般財団法人松井文庫、八代市立博物館未来の森ミュージアム、熊本県立美術館、熊本大学附属図書館、熊本大学永青文庫研究センター、ホテル椿山荘東京



展示構成

戦国最強の家老・松井康之

^{やすゆき}
康之(1550～1612)は、室町時代末から江戸時代初期にかけて活躍した武将。はじめに仕えていた将軍・足利義輝が暗殺されると、やがて細川家と主従関係を結び、細川藤孝・忠興の家臣としてめざましい活躍を重ねていきました。

康之の働きぶりは天下人も認めるところで、まさに「戦国最強の家老」。なかでも豊臣秀吉は石見半国を与え直参大名に取り立てようとしたほどでした。ところが、主君である細川家に背くことはできないと康之はその申し出を固辞。細川家への忠義に感動した秀吉は「唐物茶壺 銘 深山」を与えました。さらにこのエピソードは徳川家康をも感動させ、「縄簾水指」が贈られました。

康之は藤孝・忠興から冷遇された時期もありましたが、それでも忠興が家康から謀反の嫌疑をかけられた際など、外交能力を発揮して危機を救っています。晩年病を患った康之のもとには、忠興から毎日のように見舞いの手紙が届きました。ただひたすらに細川家に尽くした康之の忠義は報われました。



重要文化財「織田信長黒印状」
細川藤孝宛 天正9年(1581)9月16日
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)



八代市指定有形文化財
「唐物茶壺 銘 深山」
中国・元～明時代(14～15世紀)
松井文庫蔵



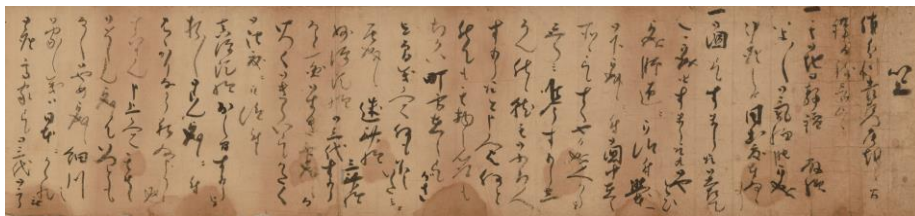
八代市指定有形文化財
「縄簾水指」
朝鮮・李朝時代(15～16世紀)
松井文庫蔵



「細川忠興見舞状群」
慶長13年(1608)
松井文庫蔵(八代市立博物館寄託)

モノ言う家老・松井興長

^{おきな}
康之の次男として生まれた興長(1582～1661)は、戦死した兄にかわって慶長16年(1611)に松井家の家督を継ぎ、50年にわたり、細川忠興・忠利・光尚・綱利の4人の藩主に仕えました。父・康之が軍事・外交面で細川家を支え御家の存続を考えたのに対し、興長は、ことあるごとに主君に忌憚のない意見を述べて誤りを正そうとし、藩主としてふさわしい道へ導くことを使命としました。特に、幼くして家督を継ぎ、遊興にふけりがちだった藩主・綱利に対しては、5メートルにも及ぶ書状を自らしたため、領国・熊本で相撲取りを召し抱えようとしたことを諫めています。いわば、興長は“最強のモノ言う家老”でした。



「松井興長自筆諫言状」(部分)
万治3年(1660)3月12日
松井文庫蔵(八代市立博物館寄託)



「松井興長血判起請文」
元和10年(1624)正月4日
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)



「緋黒羅紗段替陣羽織」
江戸時代(17世紀)
松井文庫蔵

松井家と宮本武蔵

剣豪・宮本武蔵は、松井家の後援を受けながら細川家の客分として晩年を熊本の地で過ごしました。八代市立博物館には武蔵の直筆書状が1通所蔵されており、本状から、熊本入りの背景には松井興長の尽力があったことが指摘されています。直筆書状は現在2通しか確認されておらず、武蔵の動静が窺える貴重な史料です。

また、武蔵は諸芸にすぐれ、複数の水墨画を描いた画人であったことも知られています。本章では永青文庫と松井文庫の所蔵品から、研究上、武蔵の基準作とされる水墨画を中心に、重要文化財2件を含めた作品群を一堂に展覧します。



熊本県指定重要文化財「宮本武蔵書状」
松井興長宛 寛永17年(1640)カ 7月18日
八代市立博物館蔵



八代市指定有形文化財
伝 宮本武蔵作「木刀」
江戸時代(17世紀)
松井文庫蔵



重要文化財 宮本武蔵「鶴図」
江戸時代(17世紀)
永青文庫蔵
(熊本県立美術館寄託)



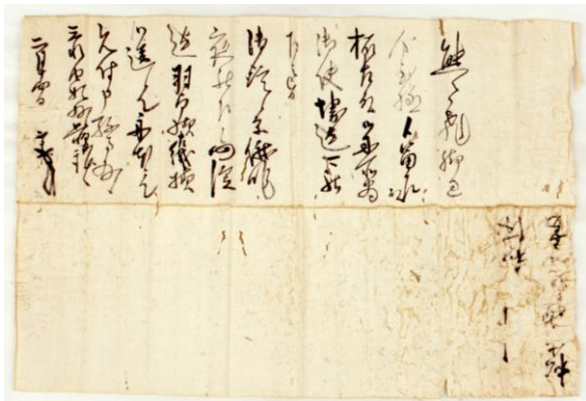
宮本武蔵「正面達磨図」
江戸時代(17世紀)
永青文庫蔵



宮本武蔵 一行書「戦気」
江戸時代(17世紀)
松井文庫蔵

松井家と茶の湯

松井康之は細川家二代・忠興とともに千利休の高弟として知られ、古田織部とも深く交流するなど、茶の湯に親しまれました。松井文庫には利休や織部ゆかりの品々が伝わっていますが、そのなかでも、利休が切腹2週間前に康之に宛てた書状は白眉です。秀吉の怒りを買い堺へ下る利休を見送った忠興と織部への驚きと感謝を康之に言づけており、茶の湯をめぐる四者の密な繋がりが窺えます。本章ではこの書状とともに、細川家・松井家伝来の茶道具を展覧します。



熊本県指定重要文化財「千利休書状」
松井康之宛 天正19年(1591)2月14日
松井文庫蔵(八代市立博物館寄託)



重要美術品
「唐物尻膨茶入 利休尻ふくら」
中国・南宋～元時代(13～14世紀)
永青文庫蔵



「象嵌牡丹文茶碗」
江戸時代(17世紀)
永青文庫蔵



見どころ

◆東京初！細川家と松井家の伝来品による主君と家臣のコラボ展

細川家の最も重要な家臣として歴史に名を遺した松井家。本展では細川家(永青文庫)と松井家(松井文庫)の伝来品から、主君と家臣の関係を東京で初紹介します。またとない歴史ファン必見の展覧会です。

◆最強家老のエピソードを古文書などを通して紹介 御家存続の秘訣がここに！

ただひたすらに細川家に仕え続けた松井康之と興長。戦国時代から江戸初期にかけての二人の最強エピソードを歴史資料から紹介します。

天下人からも一目置かれた彼らが主家存立のために頑張る姿は、現代の私たちにも共感を与えてくれるかもしれません。

◆宮本武蔵の直筆書状や水墨画などが一堂に

松井興長の斡旋により熊本藩の客分として仕官することになった武蔵。興長との交流を知ることできる直筆の書状や、研究上、基準作とされている水墨画の数々を大公開します。

◆利休との別れ 著名シーンの元になった千利休書状を展示

秀吉の勘気に触れ堺に下る利休を忠興・織部が見送るといふ、映画などでたびたび描かれる別れのシーン。その場面の元になった松井文庫屈指の書状を、利休や織部ゆかりの茶道具とともに展覽します。



「銀箔押尖笠形兜」
桃山時代(16世紀)
松井文庫蔵



重要文化財「羽柴秀吉血判起請文」
細川藤孝・忠興宛 天正10年(1582)7月11日
永青文庫蔵
【原本期間限定展示】4月19日～5月8日



「五輪書」
江戸時代(17～19世紀)
永青文庫蔵



「南蛮耳付水指」
ベトナム・17世紀
松井文庫蔵



関連企画

◇「戦国最強の家老」展×ホテル椿山荘東京 コラボレーションランチ

日本料理「みゆき」では、松井興長が徳川家光から拝領したと伝わる「緋黒羅紗段替陣羽織」をイメージした寿司御膳をお楽しみいただけます！

期間：2月8日(火)～5月8日(日) ※3日前までの事前予約制

料金：料理のみ7,700円、展覧会チケット付き8,000円(ともに税込)

ご予約・お問合せ：ホテル椿山荘東京 TEL 03-3943-5489



「陣羽織寿司御膳」
(写真は料理の一部です)

◇記念講演会「細川家にお仕えて」

日時：2022年3月21日(月・祝) 13:30～15:30

講師：松井 葵之 氏(松井家14代当主・一般財団法人松井文庫理事長)

会場：和敬塾本館 旧細川侯爵邸1階ホール(東京都文京区目白台1-21-2)

定員：30人(先着順)

参加費：1000円(友の会会員・学生500円) ※当日、現金でお支払いください

申込方法：2/11(金・祝)午前10:00より電話(03-3941-0850)にて先着順に受付

通常非公開の旧細川侯爵邸にて、細川家と松井家の関わりや思い出をお話いただく予定です

【お問い合わせ】

公益財団法人 永青文庫

〒112-0015

東京都文京区目白台1-1-1

TEL: 03-3941-0850

FAX: 03-3943-0454

令和3年度春季展「戦国最強の家老—細川家を支えた重臣松井家とその至宝—」
広報画像申請書

2022年3月12日(土)~5月8日(日)

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

ご所属:

TEL:

FAX:

ご住所:

E-mail:

掲載予定日: 年 月 日

掲載概要:(コーナー名、画像の掲載サイズ など)

□読者プレゼント用チケット(5組10名様)ご希望の場合はチェックを付けてください。

※2022年4月8日までにご紹介頂ける場合に限らせて頂きます。※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。



1. 「松井康之像」
以心崇伝賛
慶長17年(1612)
松井文庫蔵



2. 「松井興長像」
霊叟玄承賛
寛文3年(1663)
松井文庫蔵



3. 八代市指定有形文化財
「唐物茶壺 銘 深山」
中国・元~明時代(14~15世紀)
松井文庫蔵



4. 「銀箔押尖笠形兜」
桃山時代(16世紀)
松井文庫蔵



5. 「松井興長自筆諫言状」(部分)
万治3年(1660)3月12日
松井文庫蔵(八代市立博物館寄託)



6. 「緋黒羅紗段替陣羽織」
江戸時代(17世紀)
松井文庫蔵



7. 熊本県指定重要文化財
「宮本武蔵書状」
松井興長宛 寛永17年(1640)カ7月18日
八代市立博物館蔵



8. 重要文化財
宮本武蔵「鞆図」
江戸時代(17世紀)
永青文庫蔵
(熊本県立美術館寄託)



9. 熊本県指定重要文化財「千利休書状」
松井康之宛 天正19年(1591)2月14日
松井文庫蔵(八代市立博物館寄託)



10. 重要美術品
「唐物尻彫茶入 利休尻ふくら」
中国・南宋~元時代(13~14世紀)
永青文庫蔵

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。

※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。

※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみに使用いたします。

許可なく第三者に個人情報を開示することはございません。